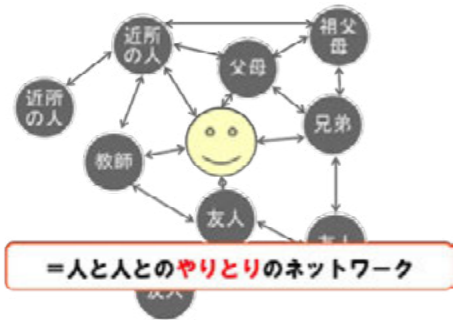


# 「コンパクトライフ・プロジェクト」に関する一考察 —インタビューデータの分析から—

基礎教育課程 小田珠生 Tamaki Oda

インタラクティブメディア学科 野口靖 Yasushi Noguchi



=人と人のやりとりのネットワーク

外的生態環境のネットワーク



=頭の中の言語・認知・情慮のネットワーク

内的生態環境のネットワーク

人間としての活動は、「言語」に支えられている。言い換えれば、「言語」と一体化していると言っても過言ではない。なぜなら、人間は言語を用いて思考し、他者との言語のやりとりによって築かれるネットワークの中で生活しているからである。

しかしながら、グローバル化の波に晒されている近年の日本では、「言語」が機能していないことによる社会問題が顕在化している。例えば、「巨大信仰」に基づくグローバルな競争社会が生み出したエネルギー問題や環境問題など多くの社会問題も、政策側と当事者の相互交渉的關係や情報の不足が原因であると捉えれば、実は「言語」の機能不全に起因すると言えよう。

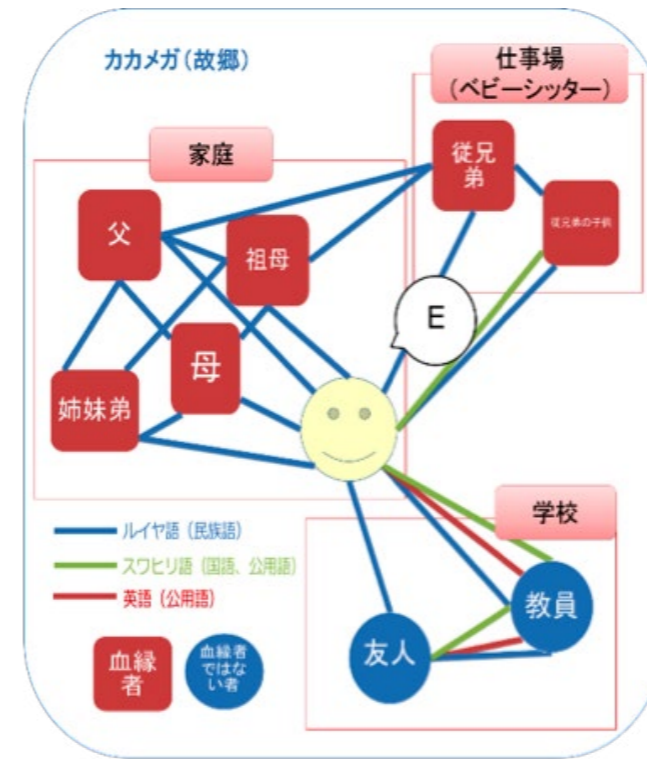
野口による「コンパクトライフ・プロジェクト」(2016～)は、「巨大信仰」について再考すべく、ケニア・日本・スウェーデンという異なる環境下でコンパクトに生活する人々の暮らしぶりを探るものである。本発表では、当該プロジェクトのうち、ケニアのスラムで暮らすある女性の生活に注目し、「言語生態学」を理論的枠組みとして彼女に対するインタビューデータを分析したい。日本とは全く異なる言語環境にあるケニアで、彼女はどのようにネットワークの中で「言語」を機能させていると認識しているのだろうか。



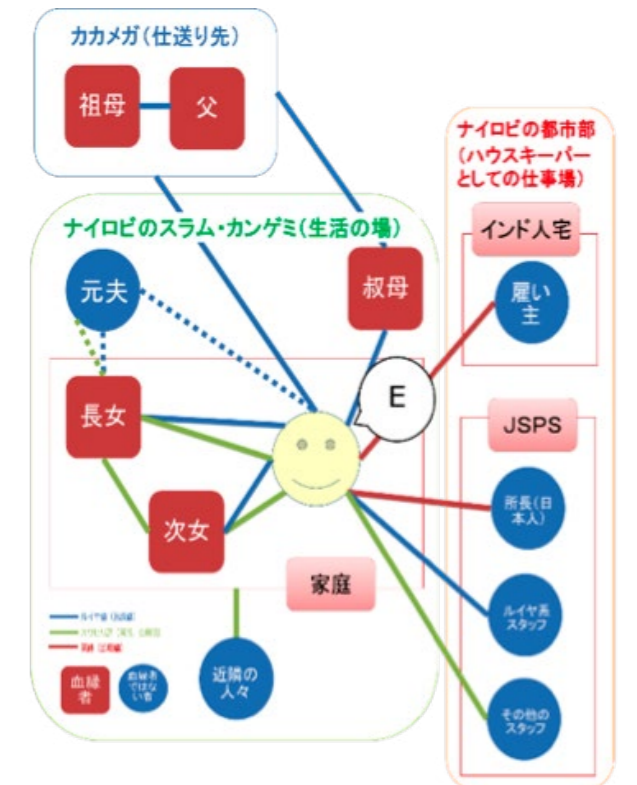
小田珠生・お茶の水女子大学大学院博士課程修了。言語生態学を理論的支柱とする持続可能性日本語教育の可能性を、理論と実践を往還しながら追求しています。グローバル化が進む現代社会で生きていくための「ことば」の教育のあり方を追求することを研究の大きな目的としています。



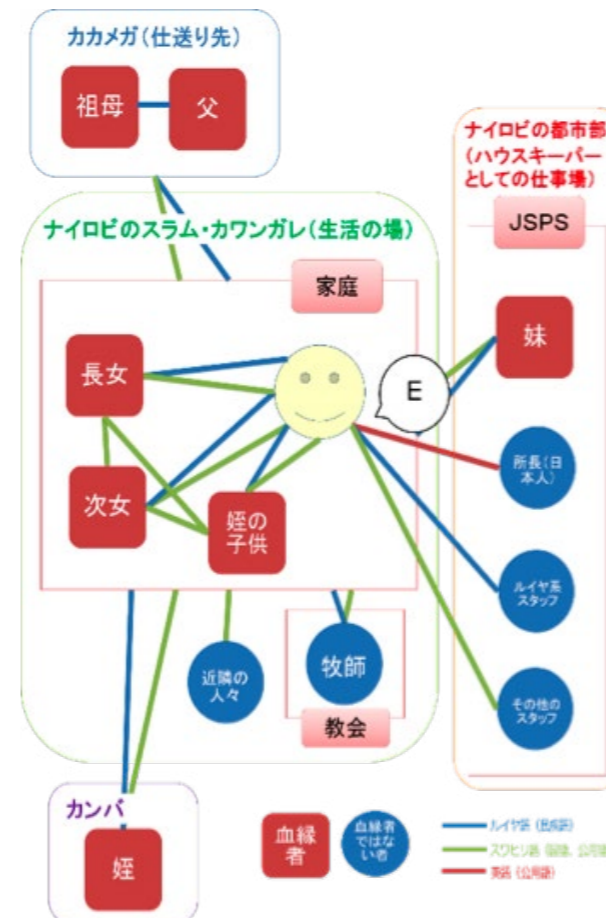
野口靖・地域の集積的記憶や隠蔽された社会構造をテーマに、マッピングなどの手法をもちいたプロジェクトを多く手がけている。武蔵野美術大学助手を経て渡米。2003年 ニューヨーク大学大学院修了。文化庁芸術家在外研修員。2004年 ボーラ美術振興財団在外研修生としてニューヨークにて活動。2008年 SIGGRAPH Asia 2008 出展。2009年 アルス・エレクトロニカ Honorary Mention 選出。2013年 第5回恵比寿映像祭出展。2015年 文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品選出など。



故郷カカメガにいたころのネットワーク (1964～)



ナイロビのスラム・カンゲミに移住してからのネットワーク (1981頃～)



ナイロビのスラム・カワンガレに移住してからのネットワーク (2003～)